

令和7年度 学校評価（自己評価）結果

令和8年3月1日 実施

1 対象者 四街道小職員

2 評価 A（十分） B（おおむね十分） C（不十分） D（早急に改善を要する）

	項目	A	B	C	D
1	学校教育目標、経営の方針、今年度の重点を常に念頭に置いて職務を遂行している。	17%	76%	7%	0%
2	今年度のスローガンを意識して指導を行っている。	27%	67%	7%	0%
3	安全で安心な学校であるよう安全点検と、避難訓練などを含む安全教育を実施している。	40%	57%	3%	0%
4	こども・家庭・地域から信頼される学校づくりを目指し、情報発信や地域資源の教材化、外部機関との連携した学習活動を行っている。	3%	67%	30%	0%
5	PDCAサイクルを実践し、教育活動の改善と質的向上を実現している。	7%	76%	17%	0%
6	「全ての教職員で児童を育てる」という視点で共通指導、共通行動、情報共有に努めている。	20%	70%	10%	0%
7	校務分掌の役割を果たし、職員どうし協力して職務にあたっている。	20%	70%	10%	0%
8	基礎基本の定着を図るとともに、わかる授業を実践している。	10%	83%	7%	0%
9	年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている。	17%	70%	13%	0%
10	学習課題を青枠で明記し、児童が主体的に取り組めるような指導の工夫、改善に努めている。	27%	56%	17%	0%
11	ICT機器を効果的に活用しながら、各教科等において深い学びに向けた授業改善に努めている。	17%	56%	27%	0%
12	朝読書を確実にを行うとともに、読書活動の充実を図るために図書室等を利用した活動を行っている。	13%	60%	23%	3%
13	全教育活動を通じた道徳教育の推進を、意図的に行っている。	10%	74%	13%	3%
14	指導のあり方や実践について、児童の実態を考慮し、計画的に進めている。	7%	87%	3%	3%
15	いじめや児童虐待、問題行動の早期発見の重要性を理解しチームで適切に対応している。	37%	60%	3%	0%
16	教育相談を充実させ一人一人の心情に寄り添った指導・支援をしている。	27%	70%	3%	0%
17	生徒指導上の課題について、全職員共通理解のもと課題解決に当たっている。	27%	66%	7%	0%
18	黙働清掃の意義を理解し、清掃指導の充実努めている。	17%	60%	20%	3%
19	ユニバーサルデザインの視点からの授業づくりを実践している。	20%	77%	3%	0%
20	児童の実態を的確に把握し、個に応じた指導・支援の充実に努めている。	7%	83%	10%	0%
21	学校行事や児童会行事等に、児童が主体的に取り組めるよう指導・支援している。	30%	63%	7%	0%
22	委員会活動や係の仕事に児童が主体的に取り組めるよう、指導・支援している。	20%	73%	7%	0%
23	校内研修に積極的に参加し、授業力の向上のために取り組んでいる。	20%	63%	17%	0%
24	組織的な研修の進め方を理解し、ブロック別の研修等を協力的・意欲的に行っている。	20%	63%	17%	0%
25	自己の課題を把握し、校外の研修に参加する等、自己研鑽に取り組んでいる。	20%	53%	27%	0%
26	常に児童の健康状態を把握している。	27%	73%	0%	0%
27	日頃から、児童の運動に取り組む態度の育成や体力向上に向けた指導を行っている。	20%	63%	17%	0%
28	食育や歯科指導等、心身の調和的な発達を図るための指導を行っている。	17%	63%	17%	0%
29	児童の危機管理能力の向上のため、交通安全指導、避難訓練、ワンポイント避難訓練等の安全指導を行っている。	37%	63%	0%	0%
30	校舎内外の施設・設備を完全に使用できるように、点検・対応を行っている。	23%	70%	7%	0%
31	保護者会・個人面談等を、学校と家庭との連携を深める機会として活用している。	10%	80%	10%	0%

32	家庭への通信（学校・学年だより、保健・給食だより、電話など）を、適切に行っている。	17%	83%	0%	0%
33	モラルアップ研修等を計画的に行い、規範意識の高い職場を作るとともに、相談し合える職場環境の醸成に寄与している。	10%	77%	13%	0%
34	服務規定や職場の約束事、不祥事根絶に関する取り組みを全職員が理解し、実践している。	27%	70%	3%	0%
35	業務の効率化に努め、勤務時間を意識して業務を遂行している。	13%	40%	43%	3%
36	机上整理や電話の対応など、一社会人として、また、公務員として必要な振る舞いを実践している。	13%	67%	20%	0%

<改善点及び今後の重点>
集計結果から、多くの職員が学校教育目標「夢を抱き、心豊かで、実践力のある児童の育成」という理念を理解し、その実現に向けて具体的な行動をとることができたと考える。特に、校内研修を通して学力向上に向けた授業改善のための方策を児童の実態や発達段階に応じて取っていったため、教職員の指導力が向上し肯定的評価が高かった。
課題としては、指導面では「ICT機器を活用した授業方法の工夫改善」がある。業務改善の視点とともに、ICT機器の効果的な活用方法について教務主任・情報担当を中心に次年度も研修を深めていく。生徒指導面では「清掃時の黙働」への指導が徹底しなかったことがある。中学校への接続を踏まえ、次年度指導が徹底できる体制を構築したい。
業務の効率化・業務改善については、昨年度より平均在校時間が短く・平均退勤時間が早くなったが、個人差が大きいことが現状としてある。次年度は管理職だけでなく、全職員で業務改善のについて効果的な方法を検討し、すべての職員が心身共に健康な状態で児童に向き合う時間の確保に努めていける体制を構築する。
管理職は学校便りやホームページ等を活用して正確でタイムリーな情報提供に努め、担任は丁寧な保護者対応に努めていけるよう校内体制を次年度も整備していく。